昭和59年6月15日発行

中央大学理工学部
電気工学科同窓会々誌

第21号

発行元　〒112
東京都文京区春日1－3－27
中央大学理工学部電気工学科
TEL.　03－813－4171(内)531

あいさつ

会長　鈴木克郎

同窓生の皆様には、益々御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

二度に亘る石油ショック以降、引続いていた経済の低迷も、エレクトロニックスを主体とする軽薄短小化、OA化等の技術革新を先鞭として、やっと回復の兆しが垣間見られる様な状況になってきました。

この様な状況を反影してか、本年の電気工学科の志願者は過去最大の約三五〇〇人に達し、約二九倍の狭き門になったと反聞しております。また、本年の卒業生には約一七倍の求人があった由で、大変御同慶の至りであります。

しかし、これら目覚ましい発展には、学校当局および諸先生の御努力と相まって、同窓生の皆様が立派な実績を上げ、世間に評価されていることが、大きく寄与していることも事実であると考えられます。

従いまして、母校の発展のためまた後輩のためにも、同窓生の皆様の益々の御活躍をお願いするとともに、同窓生同志の絆をより強めていく必要があると考えますので、御理解と御協力をお願いする次第です。

さて、作年は五月に在校生が社会に出発するに当っての助言と、同窓会との繋がりを配慮して、同窓生との懇談会を常任幹事の努力により開催致しました。遠藤先生をはじめ、同窓生の内田氏（三二年卒）田中氏（四五年卒）中村氏（四八年卒）には、貴重な時間をさいて懇談会に出席して戴き、大変ありがとうございました。本年も同様な行事を考えておりますので、同窓生には奮って御参加戴ければ幸いです。

最後に、来る七月、池袋東方会館にて昭和五十九年度総会（第二八回）を開催致します。

ぜひ、周囲の同窓生をおさそい合せの上、御夫人同伴にて多数の皆様が御出席下さるようお願いする次第です。

電気学会全国大会開催される

去る三月二十八日より三日間理工学部校舎において電気学会全国大会が開催されました。都心の大学として、交通至便の点から三日間にわたり、特別講演二件、シンポジウム14課題92講演と一般講演一四二三件の発表がありました。二日目の懇親会場には、学生食堂が使われ沢山の参加があったことと、大類、北村、猪狩、篠田各先生が大会の運営に当りました。

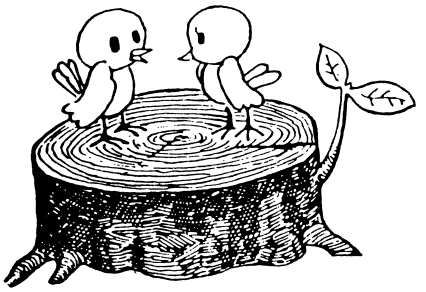
就職担当者は吉久、深井両先生にきまる

学生の就職に関する科の担当の先生に、大類先生、有馬先生にかわって、吉久、深井両先生が決り、毎日多忙の日を過ごされています。卒業生のみなさんが後輩を欲しいとか、会社を紹介したいとか、転職？のご相談などに来校されてはいかがでしょうか。両先生まことにご苦労さまです。

昭和五十八年度総会開かる

昭和五十八年度総会が七月二日、大類、猪狩、深井、神原、小林(一)各先生のご出席をいただき、池袋の東方会館において開催されました。出席された同窓の方々は左の通りです（敬称略）

28年卒　鈴木、田中、竹中、長田
29年卒　密山、小林、五十嵐、黒崎、池田
30年卒　小林、大越
31年卒　秋山、川喜田　堀中　遠藤　垣田　滝沢
32年卒　青木(国)　青木(義)　内田　松木　松岡　田中　近藤
33年卒　会田　阿佐　鈴木　萩野　中村　菱田　佐藤　高橋　杉山　市川



34年卒　寺西　加賀　渡辺　仲谷　谷岡　石島　山部　塚原　渡部　吉富　内山　野島　福島　重政　秋山　内藤
35年卒　山木
36年卒　藤田
37年卒　福内　古木
38年卒　大庭　牛島
39年卒　山口　知覧　林　門原
40年卒　永田　吉田
41年卒　荒牧
42年卒　志村
43年卒　泰野
44年卒　有田
45年卒　杉原
47年卒　菅原
48年卒　廿楽　雨毛田　北村
49年卒　佐野
50年卒　和田
51年卒　増田　椿
52年卒　江田　飯田　田中　三上
53年卒　渡辺
54年卒　岸
55年卒　中村
56年卒　松岡　小久保
57年卒　谷井　芦川　森下
58年卒　萩原　佐保田　佐藤　阿波根　大石　竹谷　瀬出井　西尾　関　菊地　西谷　仲井　大学院生　柴田　沖野　中村

卒業して二年

長谷川栄久雄

長かった冬も終わり、札幌の街にもようやく春が訪れ、心も体もうかれ出しそうなこの頃です。

大学を卒業して丸2年がたち、社会人としてようやく認められつつあるようになってきました。

会社に入った頃は、学生気分が抜けなくて（今までも完全に抜けきっていないと思う）困りましたが、毎日々々が戦争のような忙しさのなかにあるので、学生気分云々などといっていられません。

色々な事を考える余裕すら持てないような忙しさです。しかし、この不景気な時勢のため、私の会社では利益があがらず苦しい時期であるようです。

たまに、東京へ行き同窓生、先生方にお会いしたいと思ってもなかなか休暇もとれないし、出張にもならないので、機会がありませんのでこの誌面をお借りしてあいさつします。

私の身辺に変わった事は特にありませんが、また少し太ってしまいこりゃシェイプアップしなければならないと思ってあせっています。

最後に先生方、同窓会生のなお一層のご活躍を期待いたします。

故 山下美雄先生を偲ぶ

遠藤 正雄（理工）

山下先生とゆっくりお話しできたのは5月25日のことである。そのとき初めて、僕は胃腫瘍なのだが手術してもしなくても結果は同じと思う、と淡々とした口調で言われたのが強く印象に残っている。話しの中で、足のむくみがひどくて駅の階段の上り下りがきついので、時間はかかるけれどもバスを利用して通勤していること、手もこの通りむくんでいることなどを話され、現在ワクチン療法をしているのでともらしておられた。後で先生のお嬢さんから伺ったところによると、早く入院するよう勧めても父は「手術しない方に賭けたのだから」といって聞いてもらえなかったと涙ながらに話しておられた。私には、その言外に「教壇で仆れることができれば本望」という先生の強い信念を垣間見た思いがするのである。翌26日先生の研究室に伺ったのだが、卒業研究の学生を集めて指導しておられ、お話しすることができず27日を約したのである。が翌日大学に行けなくなったとの連絡が入り、29日には先生からの電話で、入院なさったことを知ったのである。その時休講の連絡は済んだこと、百周年記念論文の〆切に関しての処理依頼を受けている。6月2日にお見舞に伺ったときは殆んどお話しができない状態で、「皆様によろしく」という言葉が精一杯であり、万感を込められた言葉であったように思う。後の御様子は、お嬢さんのお話しによると講義のことをうわ言のように言ったり、右手を上げて黒板に書く仕草をされていたとの事であった。そして6月5日に逝去された。

先生は中央大学理工学部をこよなく愛しておられた。そして最後の力をふりしぼり研究教育の任務を全うされ、入院された後もうわ言にまで講義を続けられた。生命を賭けた壮絶とも言える教育者としての生きざまに胸を打たれ、教育者の端くれとして敬意と尊敬の念をいだくのである。

＊ ＊ ＊

先生は長い間医用電子機器の進歩並びにその安全性に関する分野で活躍されたことはその業績からも明らかであるが、私は専門外なのでその裏話を紹介できないのは残念である。最近先生から次のような質問を受けたことが思い出される。

「人間の血液中には体温によって電離（中性分子が⊕と⊖とにわかれること）した分子はあるだろうか」ということであった。私は、温度7800Kが1eV（エレクトロンボルト）のエネルギーに相当するので、気体分子の場合は最大速度の粒子は確率的には可能性があるかも知れませんが、液体の場合は運動速度がはるかに遅いので無理ではないでしょうかと申し上げたら、その可能性があると主張する人もいるのでね、と言っておられた。「血液に関する研究」は先生の一生のメインテーマで、時には御自分の血液を研究材料に提供されていたことを学生から聞いて改めて敬意の念を新たにしているところである。

さて、先生は山登りやスポーツが大好きで、お一人でハイキングに行かれることも多かったようであったし、十年位前のことであったと記憶しているが、ソフトボール大会で、あまり元気に走られたものだから、アキレス腱を切って入院されたことは今でも語り草である。きっと先生は山歩きが得意だった筈で、あのゆったりとした歩調でキャンパス内を歩かれる姿が鮮かに悩裡にうかぶのである。

今年の早春の小雨の日、真っ赤な芽をふき出す寸前のモミジの木（梅原教授からいただいた庭木）の小枝に雨露が成長して枝を伝わって移動する様子を撮影した私の苦心作が、つい最近先生の目にとまり、「遠藤さん、風流を解する心は大切だね」とつくづく言われた。その一言から、たった一枚の写真から私には読みとれない何かを強く感じられたことを知り、先生の風流人としての洞察力が偲ばれた次第である。

思えば、先生が中央大学に就任された昭和27年は私が大学に入学した年でもあり、以来30余年間学生としてまた教員として御指導賜ったわけであるが、思い浮ぶことは非常に多いにもかかわらず、書いてみると断片的なことしか書けない。先生は御自分のことはあまり語られず、常に人の話しを聞くことが多かったせいかも知れないし、一方で自分には厳しく生きられた先生だったからかも知れない。

理工学部教授山下美雄先生は、本年6月5日8時15分胃腫瘍のため、新宿区の聖母病院で逝去。六六歳。

〈略歴〉 山下先生は一九一七年（大正六年）3月16日東京生れ。昭和18年6月東京大学工学部電気工学科を卒業後、三菱電機株式会社東洋電波株式会社、静岡県立御殿場高等学校教諭などを経て、昭和27年中央大学工学部専任講師として赴任。同30年助教授、同37年教授。

山下先生は、医用電子（M・E）機器の安全性の立場から医療技術の進歩に大きな足跡を残された。日本M・E学会関係の多数の委員長、委員等歴任され、特に日本電子機械工業会臨時M・E・JIS制定検討委員会部会長並びに日本工業標準調査会IEC/SC62D専門委員会幹事として活躍された。研究面では、医学部や他の研究機関との共同研究が多く、幅広く活躍されていた。

昭和57年度会計報告

収入		支出	
前年度繰越金	2,493,688	57年度総会費	641,350
57年度総会々費	637,000	通信・印刷費	448,650
預貯金利息	23,807	アルバイト代	37,524
名簿売上代	2,000	事務運営費	25,700
終身会費	738,000	名簿関係費	
寄付金	30,000	印刷費	30,000
		通信費	0
		アルバイト	0
		事務費	0
		慶弔費	1,900
		次年度繰越金	2,739,371
計	3,924,495		3,924,495

同窓会入会にあたって

藤井　真

中大理工へ入学以来、4年の年月があっというまに流れ、どうにか卒業の運びとなり、同窓会の一員になることができました。

学生時代を振り返ると、何かと無為に過ごした日々に対しては、なんとかならなかったのかと反省するばかりです。

今、卒業という言葉と、社会人という言葉にいろいろな想いをいだき、自己の将来に対し、未熟さと我の強さから、様々な不安を心に、現実を把握してゆくことと思いますが、そのようななか、先輩諸氏のご指導、ご協力をお願いすることもあるかと思います。

特に、いろいろな経験、体験等を、機会ある折には、お聞かせ頂ければ幸いです。現在は、やはり不毛の時代だと最近強く考えてしまっていますが、この時代を荷負っていくのが自分たちであると思うと又、頭が重くなってしまいますが、そのような時、それらの助言は、何かと心強く感ぜさせてくれるのではないかと思います。その折には、よろしくお願い申し上げます。

けやきの緑のトンネル

同窓会から贈られたけやきの木がいま正門の両側に緑をなして初夏を迎えています。

入学式の頃にはいつもの春ですと桜は散っていたのが、寒さのため今年は満開の日に式を迎えることができました。（四月二日）。五月はじめに散った桜にかわってみなさんから贈られたけやきが大きく育って正門を入ると両側から緑のトンネルをつくっています。さて、ことしも数人の同窓生にこの誌面にニュースをお願いしましたところ、ごらんの通りです。分進秒歩の時代できわめて多忙とは存じますが、誌面が緑となすために同窓生の活性化のためにあなたの水が必要です。

（編集後記にかえて）

本年度　総会・懇親会は七月十四日(土)!!

日時　七月七日(土)午後五時半～八時
会費　六〇〇〇円
　　同伴者　三〇〇〇円
　　59年卒業　五〇〇〇円
会場　東方会館（池袋西口）
　　(電)〇三ー九八七ー〇二一一
世話人　35年卒業生

「42年電気工学科同窓生より」

去る一月二十七日、日本橋の某クラブで有志が十五名集まり、消息を確かめ合い旧交を熱めました。振り返って見れば、42年卒業後、七年を径って初めて二十七名程度の集りを、電々公社鎌倉ゆかり荘で開き、以後毎年夏鎌倉二回、房総一回開きました。途中とだえ、昨年より人数は会場の都合で半数程度ですが会合を開いています。皆様の消息を伝えますと、電力関係の会社、通信及び電算関係の会社、役所等さまざまな分野で責任ある立場で仕事をやっています。

今回の会合は各自いそがしいあまり自分の産業にだけ目を向けて、ともすれば「井の中の蛙」になりがちですが、今日一日だけでも分野を越え巾広い自己啓発し、人間としての活力を蓄え、人生豊かになる様、懇親を目的としました。今後とも、単なる名刺交換会の催しだけでなく、「終生勉強」という私達は自己啓発を容易に行なえる懇親会を催したいと思っています。

「島村」記

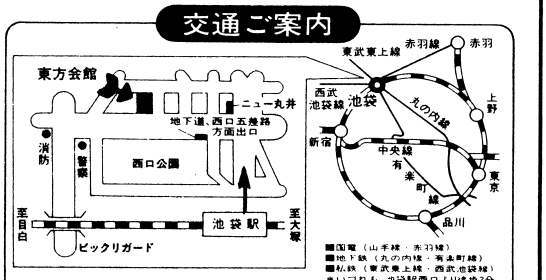
「ごあいさつ」にかえて

電気工学科主任　遠藤正雄

卒業生の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。前号にも書きましたが、中央大学は昭和六十年で創立百周年を迎えることになり、その記念式典が昭和六十年三月十六日に多摩校舎で催されることになりました。理工学部も昭和六十年度から学科目の改訂等を含む内容の充実を目ざし努力中であります。

さて昨年の総会のときにお話し致しましたように、山下美雄教授が逝去されました。告別式には多数の皆さんに御参列たまわり、誠に有難うございました。先生は中央大学理工学部をこよなく愛され卒業生にも常に温かく接してこられたことは皆んなの知るところですが、更に「中央大学教員組合新聞」に書きました手記を掲載し、皆さんと共に先生並びに奥様の御冥福をお祈り申し上げ、挨拶にかえたいと思います。

交通ご案内



ウエディングプラザ東方會館　TEL 03 (987) 0211
東京都豊島区西池袋3-21-12